

人工種苗の放流効果調査（石見海域）

（栽培漁業事業化総合推進事業）

藤川裕司・沖野 晃・田中伸和

1. 研究目的

平成9年度に引き続き、石見海域において放流したマダイ、ヒラメ人工種苗の水揚げ量、水揚げ金額を推定するための調査を、平成10年4月から11年3月にかけて行った。なお、本調査に係わる市場調査は、水産試験場、浜田水産事務所、松江水産事務所、水産振興課、水産振興協会が共同で行った。詳細は「平成10年度栽培漁業事業化総合推進事業マダイ、ヒラメ放流効果調査報告書」に報告した。

2. 研究方法と結果

(1) マダイ

放流実施状況：浜田漁港内で100,000尾、温泉津港沖で196,000尾、多伎町小田沖で24,670尾、湖陵町差海川沖で19,500尾が放流された。なお、放流時の鼻孔連結魚出現率は浜田放流群が58%、温泉津放流群が42%であった。

調査方法：益田市漁協の定置網、釣り、さし網、地曳網、浜田市漁協の定置網、釣り、五十猛漁協の釣り、はえ縄、和江漁協、大田市漁協の小底1種、多伎町漁協の定置網、さし網による漁獲物を対象に調査を行った。測定は尾叉長を計測するとともに、左右の鼻孔を観察した。鼻孔隔壁が認められる個体を鼻孔正常魚、鼻孔隔壁の欠損が認められる個体を鼻孔連結魚とした。

水揚げ魚の年齢組成と放流魚の混獲状況：本海域における水揚げ魚の年齢組成は、2、3歳魚が主体で4歳魚以上が少ないのが特徴的であった。鼻孔連結魚の年齢組成を、放流時点における鼻孔連結魚の出現率で除して放流魚の年齢組成を推定した。放流魚の混獲率は、1.2%であった。

放流魚の推定水揚げ重量と金額：平成10年4月から11年3月にかけての石見海域における放流魚の水揚げ重量は2,202kg、水揚げ金額は225万円と推定された。

(2) ヒラメ

放流実施状況：益田沖で40,000尾、三隅沖で14,000尾、浜田沖で16,000尾、江津沖で21,000尾、宅野沖で46,000尾、和江沖で38,000尾、多伎沖で20,496尾、湖陵沖で14,028尾が放流された。

調査方法：益田市漁協の定置網、釣り、さし網、浜田市漁協の定置網、釣り、和江漁協、大田市漁協の小底1種、多伎町漁協の定置網、釣り、さし網による漁獲物を対象に調査を行った。調査は全長を計測するとともに無眼側の黒化状況を観察した。黒化が認められないものを無眼側色素正常魚、認められるものを無眼側黒化魚とした。

放流魚の推定水揚げ重量と金額：無眼側黒化魚を放流魚と考え平成10年4月から11年3月にかけての石見海域における放流魚の水揚げ重量と水揚げ金額を推定したところ、それぞれ2,424kg、482万円となった。